

(7) 近 畿



近畿地域では、景気は弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費は弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更) 。

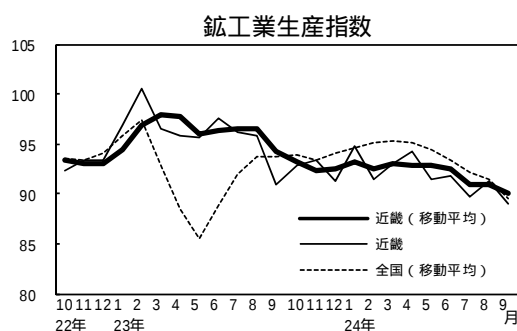
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 24 年 8 月)	今回 (平成 24 年 11 月)	
景況判断	足踏み状態	弱含み	↓
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに減少	↓
個人消費	おおむね横ばい	弱い動き	↓
住宅建設	増加	減少	↓

1 . 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに減少している。

一般機械は長期生産物であるガスタービンや蒸気タービン部品等で増加している。化学は一部で定期修理があったことや、前期にキャンペーン向けに増産していた化粧品がキャンペーンの終了に伴い生産水準を戻したこと等から減少している。食料品・たばこは飲料等で減少している。電気機械は開閉制御装置等で減少している。鉄鋼は自動車向けの鋼材が不調なこと等から減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4 ~ 6 月期	7 ~ 9 月期	7 ~ 9 月期	7 ~ 9 月期
一般機械	17.0	▲5.5	5.0	1.5	3.2
化学	14.5	2.2	▲4.0	▲3.3	▲6.8
食料品・たばこ	9.1	▲0.7	▲1.6	▲0.8	▲0.5
電気機械	8.5	0.7	▲0.7	1.0	▲1.4
鉄鋼	7.5	▲3.8	▲2.2	▲3.4	2.2
鉱工業	100.0	▲0.6	▲2.7	▲3.2	0.3

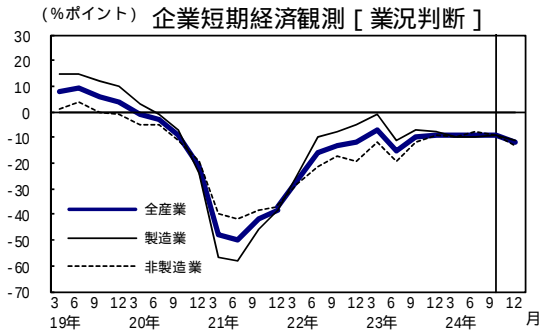
(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

(備考) 1 . 17 年 = 100、季節調整値。

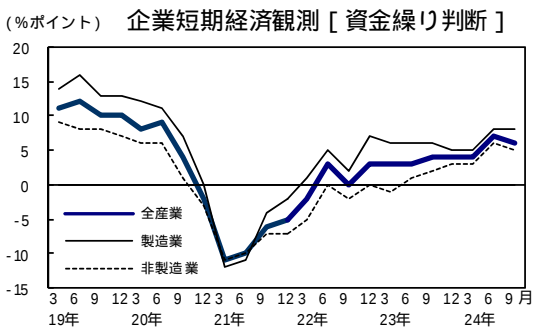
2 . 全国及び近畿の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

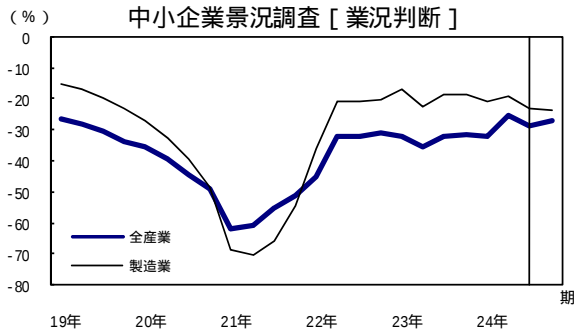
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年12月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月)[企業動向関連 (現状)]

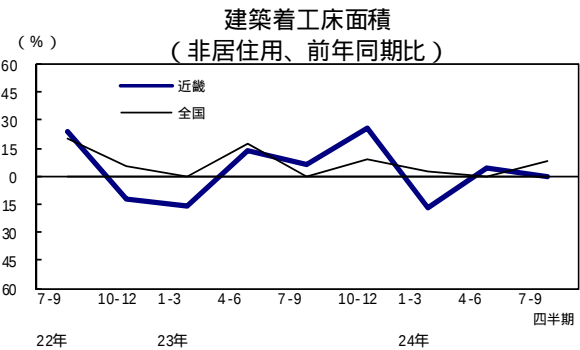
「受注増の期待は薄く、現状維持が精一杯な状況である (一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 24年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

	(前年度比、 %)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	▲8.6	8.8(1.3)
製造業	▲9.8	9.1(3.7)
非製造業	▲7.8	8.5(▲0.5)

(備考)()は前回 (6月) 調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱い動きとなっている。

大型小売店販売額

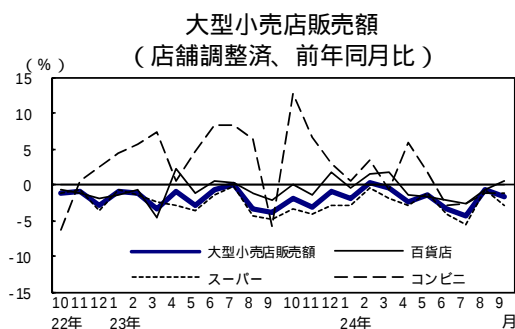
大型小売店販売額は、前年同期比で2.4%減、前期比で0.3%増となった。

百貨店は、7月は、一部クリアランスセールの後ろ倒しに加え、月前半の天候不順により夏物商材の動きが鈍かったこと等から前年を下回った。8月は、猛暑により盛夏商材は好調だったものの、秋物商材が低調に推移したことから前年を下回った。9月は、残暑により引き続き秋物商材は低調だったものの、宝飾品などの高額品が好調で前年を上回った。

スーパーは、依然として前年のエコポイント特需の反動により、テレビやレコーダー等が不振だったこと等から前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「季節は秋から冬の時期となっているが、気温が下がらず秋物の動きが活発化していない(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年10-12月	24年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店(*1)	▲1.9	▲0.8	▲2.4	▲2.4
百貨店(*1)	0.4	0.9	▲1.8	▲1.2
スーパー(*1)	▲3.4	▲1.8	▲2.8	▲3.1
大型小売店(*2)	0.0	1.1	▲2.0	▲2.1
(季節調整値)(*3)	(▲0.2)	(▲0.8)	(▲1.1)	(0.3)
乗用車(*4)	24.9	47.0	66.0	14.7
(季節調整値)(*4)	(6.8)	(16.8)	(3.8)	(▲10.0)

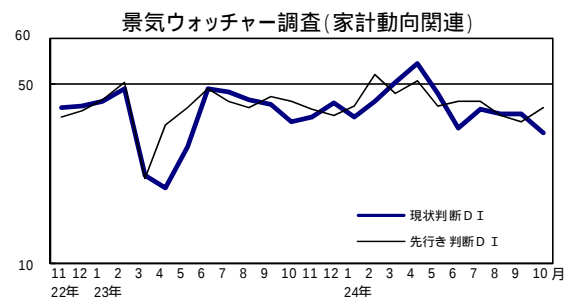
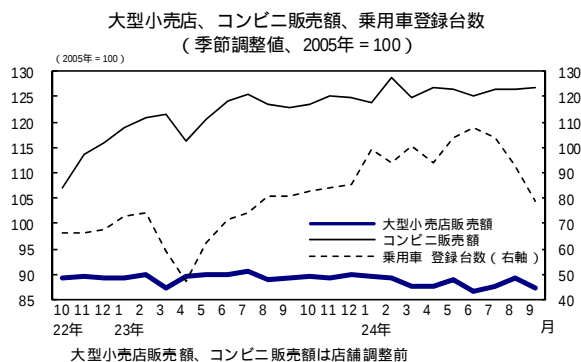
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

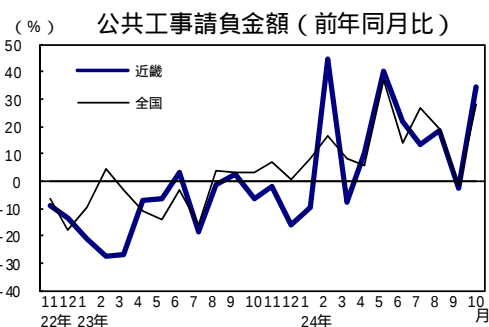
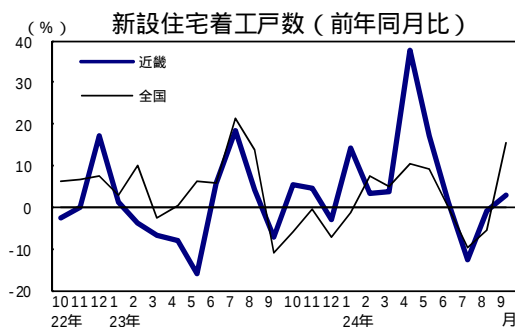
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は減少している。

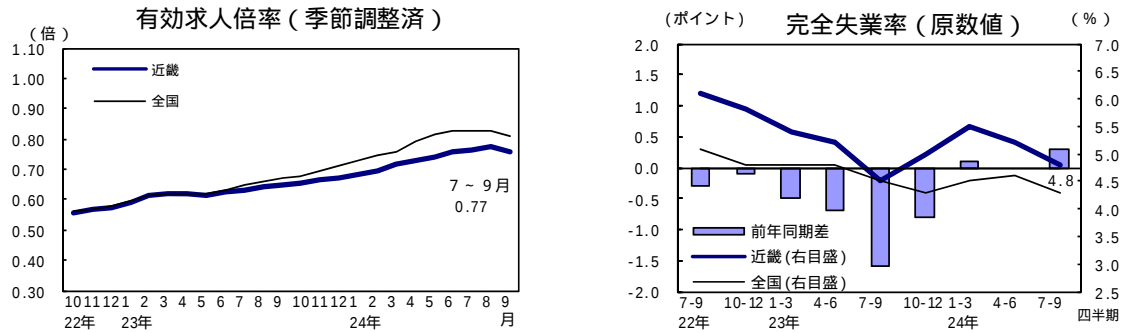
持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は24年度累計でみると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。

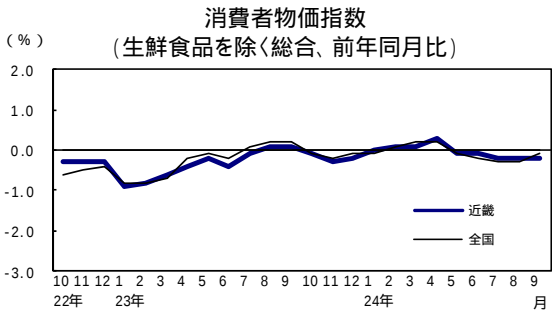


景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]
「尖閣問題については、現時点で大きく影響を受けているという事業所の情報はないものの、中国からの輸入価格の高騰や入荷の遅れが出始めているという声もあり、今後の情勢を注視したい（職業安定所）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は大幅に増加している。
(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年10-12月	24年1-3月	4-6月	7-9月	24年10月
倒産件数	858	788	799	728	252
(前年比)	▲11.0	▲8.1	▲11.4	▲13.2	▲12.5
負債総額	1,329	1,019	1,565	4,668	351
(前年比)	▲68.2	▲29.5	52.4	316.5	17.3



- 景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]
<現状>
・大手電機メーカーの経営悪化の影響などが出ている（通信会社）
<先行き>
・大阪駅周辺の商業施設のオープンが重なり、年末に向けて徐々に活気を取り戻す感じがする。年賀状印刷の受注も昨年を上回っており、今後も順調に推移する（コピーサービス業）

